

【生徒アンケートの分析】

○全日制生徒について

- ・肯定的評価の高い項目（上位3項目）
設問項目10「清掃活動がしっかりと行われ、学校は美しく保たれている。」(81.3%)
設問項目3「あいさつ運動、服装指導など、生活指導が適切に行われている。」(77.5%)
設問項目9「学校で実施している人権統一LHRや共同鑑賞により、子どもたちの人権意識は向上している。」(78.4%)
- ・肯定的評価の低い項目（下位3項目）
設問項目12「学校と保護者の連携が適切に行われている。」(55.6%)
設問項目1「能登川高校は学校の特色を活かし、活気ある学校づくりを進めている。」(57.9%)
設問項目4「学校全体でいじめを許さない雰囲気作りに努めている。」(58.2%)

○定時制生徒について

- ・肯定的評価の高い項目（上位3項目）
設問項目10「清掃活動がしっかりと行われ、学校は美しく保たれている。」(72.1%)
設問項目6「HR活動・学校行事・部活動が活発に行われ、充実した学校生活が送れている。」(66.0%)
設問項目2「授業や補習、または課題学習などで学習内容を理解・定着する工夫がされている。」(60.8%)
- ・肯定的評価の低い項目（下位3項目）
設問項目7「図書館活動が充実し、リクエストカードを活用するなど本に親しむ環境を整えている。」(45.2%)
設問項目1「能登川高校は学校の特色を活かし、活気ある学校づくりを進めている。」(46.1%)
設問項目12「学校と保護者の連携が適切に行われている。」(48.5%)

分析と改善

昨年に比べ、全定とも肯定的評価が減っている。その要因の一つとして多くの項目で「知らない、わからない」と答えている割合が高くなっている傾向がある。

全定とも設問項目10「清掃活動がしっかりと行われ、学校は美しく保たれている。」は本校の校舎が新しく使いやすいこと、普段の教室の施錠やストーブの管理も適切に行われていることが関係していると思われる。

全日制では、朝の挨拶運動を継続的にやっていること、また計画的な身だしなみ指導を実施していることが、設問項目3「あいさつ運動、服装指導など、生活指導が適切に行われている。」の肯定的評価に繋がったと考えられる。

定時制では、昼間部と夜間部合同のDAYCAMPや昼間部単独の体育祭実施で、設問項目6「HR活動・学校行事・部活動が活発に行われ、充実した学校生活が送れている。」の肯定的な評価に繋がった。

一方、全定通じて、肯定的評価が低かったものは、設問項目1「能登川高校は学校の特色を活かし、活気ある学校づくりを進めている。」である。生徒にとってわかりにくい項目であり、普通科の大きな課題である。校内での発信に努めこれは、「いじめ」に対する生徒の関心の高さの現れであり、本校における重要な課題である。

また、設問項目4「学校全体でいじめを許さない雰囲気作りに努めている。」の低い評価になっている。「いじめ」は生徒にとって関心が高い。生徒が主体となって取組ことでいじめを許さない雰囲気は高まる。行事や授業の工夫で変わっていくと考える。

【保護者アンケートの分析】

○全日制保護者について

- ・肯定的評価の高い項目（上位3項目）
設問項目10「学校に行った時、教室や廊下は美しく整っていた」(96.3%)
設問項目4「子どもは、いじめられることなく、安心して登校している」(90.4%)
設問項目11「学校に行った時や電話をかけた時の職員の対応は丁寧だった」(89.0%)
- ・肯定的評価の低い項目（下位3項目）
設問項目7「図書館活動が充実し、リクエストカードを活用するなど本に親しむ環境を整えている」(64.75%)
設問項目9「PTAは文化祭やPTS活動などで学校と連携し、活発に活動している。」(66.2%)
設問項目2「ケガや心身の調子が悪い場合は、手当てを受けたり先生に相談したりしている。」(67.6%)

○定時制保護者について

・肯定的評価の高い項目（上位3項目）

設問項目10「学校に行った時、教室や廊下は美しく整っていた」(95.7%)

設問項目11「学校に行った時や電話をかけた時の職員の対応は丁寧だった」(93.5%)

設問項目 4「子どもは、いじめられることなく、安心して登校している」(82.6%)

設問項目 6「学校行事が活発に行われ、学校生活に活気と充実感を与えている。」(82.6%)

・肯定的評価の低い項目（下位3項目）

設問項目12「PTAは文化祭やPTS活動などで学校と連携し、活発に活動している。」(43.5%)

設問項目 7「図書館活動が充実し、リクエストカードを活用するなど本に親しむ環境を整えている。」(50.0%)

設問項目 9「学校で実施している人権統一LHRや共同鑑賞により、子どもたちの人権意識は向上している。」(58.7%)

分析と改善

今回の調査で、例年に比べ全体的に肯定的評価は下がっている。要因として「知らない・わからない」と回答した割合が高い傾向がある。定時制では、肯定的評価の「ほぼ当てはまる」「やや当てはまる」より「知らない・わからない」が上回っている項目がある。この回答が大きな割合を占めると正確な評価とは言い難いため、このようなことにならない工夫は必要と考える。

肯定的評価の高い項目については、全定とも昨年度の項目と一致しており、傾向に変化はない。これは懇談会等で来校の際、直接校舎を見たり、また職員と電話対応から感じていることから考えられる。そのため「知らない、わからない」を回答する人は少ない。

肯定的評価の低い項目の特徴として、「わからない・知らない」の割合が25～46%と高く、4人に1人以上が回答している。例えば、全定共通で、設問項目12「PTAは文化祭やPTS活動などで学校と連携し、活発に活動している。」は、PTA活動をもっと活発にしてほしい。物足りなさを感じている。ということではなく、活動を知らない・わからないということが考えられる。改善のためには、学校のHPや通信等で発信を増やしたり、学校行事において保護者や地域の参画によって変化すると考える。また、このような開かれた学校の取組によって学校の教育方針への理解が深まり、支援は広がり、しいては例えば、設問項目1「能登川高校では特色ある学校づくりが行われ子どもは充実した学校生活を送っている」への評価に繋がっていくものと考ええる。